

令和元年8月1日

松本市議会

議長 村上 幸雄 様

松本市議会

上條 温

## 会派「開明」行政視察報告書

標記行政視察に参加しましたので、その概要について報告します。

### 記

#### 1 期日、場所

令和元年7月18日（木） 10時から11時30分

千葉県習志野市役所

#### 2 松本市の課題

松本市においても現在、新庁舎建設計画が進行中であり、議会においても新庁舎建設特別委員会を設置して検討しているところです。

平成29年4月に竣工した習志野市役所は、2018グッドデザイン賞を受賞するなど高く評価されています。そこで習志野市に伺い新庁舎の規模設定、庁舎の耐震性確保、防災対策、省エネ対策、建設財源の確保、市民合意の形成方法などについて調査、研究したものです。

#### 3 視察の成果

##### (1) 新庁舎の規模

当該敷地(3.5ha)は、昭和50年まで市立習志野高校として利用されており従来から市の所有であった。庁舎面積は従来分散されていた庁舎面積の合計に防災機能空間、多目的利用空間などの付帯機能面積(3,000㎡)を合計した17,600㎡を基本とした。

##### (2) 耐震性確保と防災機能

旧庁舎は平成23年東日本大震災により被災し耐震性能IS値が0.30と大震災時には崩壊の危険性が高いと判断されたため建て替えることとし新庁舎は免震構造を採用した。防災機能としては、災害時の災害対策本部となる大会議室、非常用発電機(72時間対応)、電力の2引き込み、備蓄倉庫、井戸を備えている。

### (3) 省エネ対策

建設費、光熱費、修繕費等の項目で標準建物より 27%減を目指した。具体的には長寿命化による建て替えコストの削減、自然換気・大庇による空調光熱費の削減、井水・雨水を雑排水として利用などである。

### (4) 建設財源確保

建設事業費総額は約 90 億円。財源内訳は震災復興特別交付税が約 27 億円、公共施設等再整備基金から約 16 億円、地方債約 47 億円。津田沼駅前の幼稚園跡地を約 56 億円で売却したため民間資金に依存しない資金調達ができた。

### (5) 市民合意の形成方法

基本構想案、基本設計案時にそれぞれパブコメを実施したが、東日本大震災で旧庁舎が被災したこと、市所有の適地があったことなどから建て替え方針及び新庁舎位置について大きな議論はなかった。建設開始後は「新庁舎等建設だより」を発行して進捗状況を広報した。

## 4 所感

新庁舎はなだらかな傾斜地に建設されていて、正面玄関は 1 階、庁舎裏は 2 階玄関となっている。駐車場に続く 1 階には健康福祉部の窓口を設置、庁舎裏 2 階玄関側は子ども部と教育委員会が配置されるなど、市民サービスに配慮した配置となっている。屋外のなだらかな傾斜地は芝生化されていて、庁舎はそれと呼応するように大ガラスで区切られているものの、屋外と一体化した庁舎内は大階段があって、ここに市民が思い思いに座れば即コンサートや後援会ができる市民協働スペースとなっている。災害時の避難所としても活用できる、この発想がグッドデザイン賞の高評価となったとのこと。

習志野市は人口 16 万 7 千人、市域面積は約 21 km<sup>2</sup>と非常にコンパクトな街。したがって行政効率が高く市財政力も高い市。

習志野市の新庁舎を参考に本市でも市民にとって便利で快適な庁舎を建設しなければならないと感じました。